

2025 年度 学校関係者評価報告書

仙台 YMCA 国際ホテル専門学校 学校関係者評価委員会

評価実施日：2026 年 4 月 （次回：2026 年 7 月 27 日予定）

1. はじめに

本報告書は、仙台 YMCA 国際ホテル専門学校が作成した「2025 年度自己点検評価報告書」をもとに、学校関係者評価委員会が審議・評価を行った結果をまとめたものである。評価は「専修学校における学校評価ガイドライン（平成 25 年 3 月）」に定められた 11 の大項目に沿って実施し、委員による意見・提言を付記した。

2. 評価基準

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

3. 学校関係者評価委員名簿

区分	所属・役職	氏名
①企業評価委員	ホテルメトロポリタン仙台	照井 大介
	チェリーパークホテル	伊藤 博文
②卒業生	－	今野 千明
③保護者または地域住民	－	菊地 幸子
④進路指導担当者等	仙台大志高等学校 進路	青山 聡
⑤専門家等評価委員	有限会社けやき会計事務所	菊地 弘生

4. 評価結果一覧

評価大項目	取組状況・実績（概要）	評価	委員コメント・意見
(1) 教育理念・目標			
理念・目的・育人人材像・学校の特色・将来構想	YMCA の理念・教育目標・3つのポリシーを制定。デュアルシステム・リーダーシップ育成プログラムを実施。SNS・クラスレター等で周知している。	4	－
(2) 学校運営			
運営方針・組織・情報公開・業務効率化	事業計画を策定・実行。理事会・評議員会が規則に基づき機能。Web 上で財務・事業報告を公	4	IT リテラシーの継続的向上が必要との意見あり。

評価大項目	取組状況・実績（概要）	評価	委員コメント・意見
	開。Google Workspaceを導入。		
(3) 教育活動			
カリキュラム・教員体制・授業評価	インターンシップ（年間4か月）を体系的に実施。業界関係者を教育課程編成委員会に参加。授業評価を実施しているが、結果の公表は講師本人にとどまっている。	3	授業評価結果の外部公表について、一部専門学校では取り組み事例あり（公表範囲・方法の検討を推奨）。
(4) 学修成果			
就職率・資格取得率・退学率・卒業生把握	就職支援を個別対応で実施。国家資格対策授業を導入。個人面談による退学防止対策を実施。同窓会・郵送調査で卒業生を把握。	4	留学生の就職については、N2取得者でも採用が困難なケースが増加しており、出口戦略の強化が必要。
(5) 学生支援			
進路指導・相談体制・経済支援・保護者連携	教務課全体で情報共有。奨学金（日本学生支援機構・テイラー・留学生向け）を整備。保護者会・個別懇談を実施。食糧支援は学生に好評。リカレント教育・高校連携は未実施。	3	留学生の保護者との連絡は言語・地理的制約から困難。宗教的配慮（礼拝・食事等）への対応を検討する段階にある。
(6) 教育環境			
施設設備・実習環境・防災体制	WiFi環境・トイレ改修済み。全員がインターンシップを活用。安否確認システム・緊急連絡網を整備。海外研修は費用面から実施困難な状況。	3	備品の老朽化・海外研修の費用面が課題。
(7) 学生の受入れ・募集			
募集活動の適正性・学納金の妥当性	過剰広告なし。就職内定情報を正確に公開。学納金は他校比較で妥当な水準。	4	留学生比率が高い現状を踏まえ、日本人学生の募集強化（地元仙台圏での認知度向上）が課題。
(8) 財務			
財務基盤・予算収支・会計監査・情報公開	定員充足率 80%達成	4	建物借入金は今後3年

評価大項目	取組状況・実績（概要）	評価	委員コメント・意見
	（学科によるばらつきあり）。会計監査を毎年実施。Web上で財務情報を公開。人件費増への対応が急務。		で大幅減少見込み。財務改善には定員充足の維持が不可欠。
(9) 法令等の遵守			
設置基準遵守・個人情報保護・自己評価公開	設置基準に従い運営。個人情報保護方針を整備。自己点検評価を毎年実施・公開（過去5年分をWebで公開）。	4	—
(10) 社会貢献・地域貢献			
地域向け講座・ボランティア活動・公開講座	子ども向け講座を教室で実施。ボランティアを単位認定。公開講座は企画段階にとどまり実施できていない。	3	大人向け（リカレント）講座の開発が求められる。プログラム開発・受講者確保の困難さを踏まえた現実的な計画が必要。
(11) 国際交流			
留学生の受入れ・在籍管理・学習成果発信	ワイズメンズクラブ・公益財団と連携。日本語学校との交流プログラム（日本語プレゼンテーション）を実施。Instagram等で発信中。担当者を配置しているが業務量が増加。	4	留学生増加に伴い担当者の業務量が増加しており、体制強化を検討されたい。

5. 総括意見

本校の教育理念・学校運営・法令遵守・財務の各領域においては、一貫した取り組みが継続されており、おおむね「適切」との評価を得た。一方、以下の点について委員会として改善・強化を求める意見が集約された。

- 【留学生の就職出口対策】 N2取得者でも採用が困難なケースが増加している。2027年度の学科再編（ホテルマネジメントコース・国際ホスピタリティビジネスコース）に向けて、就職先の多様化（ホテル以外の高付加価値業種を含む）と出口戦略の見直しを進めるよう求める。
- 【授業評価の公表】 授業評価結果の活用が講師本人への還元にとどまっている。他の専門学校・大学では外部への公表事例もある。学内外への開示の範囲・方法について検討することを推奨する。
- 【日本人学生の募集強化】 留学生の充足率は高い一方、日本人学生（特に宮城県内出身者）が少ない。多様な学習環境はむしろ強みであり、「留学生と共に学ぶ実践的なグローバル環境」として積極的にアピールすることを提案する。SNSや動画（学生発信含む）の活用も有効と考えられる。
- 【多文化・宗教的配慮】 ムスリム学生やキリスト教徒を含む留学生が増加している。礼拝環境・食事への配慮・入学式・卒業式等の行事における宗教的選択肢の提供について、段階的な対応を検討することが望ましい。

- (5) 【地域貢献・リカレント教育】 公開講座は企画段階にとどまることが多い。大人向け調理・ホスピタリティ講座など、YMCA の施設・人材を活かしたプログラムの開発を引き続き推進されたい。
- (6) 【教務スタッフ体制】 留学生の増加に伴い在籍管理・就職指導の業務量が増大している。現状の人員では対応が限界に達しつつあり、体制強化について具体的な検討を求める。

以上の意見を踏まえ、本校が引き続き改善に取り組まれることを期待する。本委員会は、次回（2026年7月27日予定）においても継続的な評価を行う予定である。